

第2回SSH国際交流講演会 「中国語講座」

令和8年7月1日(水)16:00～17:00に、5階多目的室CDで第2回SSH国際交流講演会が実施され、95名の生徒が参加しました。今回の講師は、本校教諭である山崎順平先生で、演題は「中国語講座」でした。

山崎順平先生は、大学で漢文について深く学ばれており、そこでの学びを通して中国語を習得されました。今回の講演会では、中国語の挨拶などの日常会話、また基本的な発音を教えていただきました。生徒が実際に中国語を声に出して発音し、「これまで考えていたものとは違う発音の仕方や、アクセントの違いに気づく」といった新たな学びが多くありました。また、質問の際には、教えていただいた中国語を活用し挨拶をする生徒がいるなど、活発な講演会になりました。



講演後、生徒から山崎先生へ講義の内容への質問がありました。

Q. 中国語では、イントネーションをはっきりさせるために、大きく喋るということでしたが、コソコソ話をするときはどうなるのですか？

A. 中国人はそもそもコソコソ話をしないと思います。するとしても日本人の普通の会話の音量だと思います。街なかで喧嘩しているように感じても、それは中国人にとっては普通の会話です。

Q. 第二声と第三声の使い分けはどのようにすればよいのですか？

A. 第二声は少し高いところから、第三声は低い音を多めに発音するのを意識すると良いです。

～参加者の感想～

ゆっくりと発音していても声調の違いを出すのが難しいのに、実際にネイティブとコミュニケーションをとるとなると聞き分けるのが本当に難しそうだ。(1年)

日本人は漢字がわかるが、文型が日本語と異なっていたり、声のトーンや息の量によって伝わる意味が変わったりと、独自の特徴がたくさんあるとわかった。難しいが、話したり聞いたりする練習をして少しずつ使えるようになれば良いなと思った。(1年)

中国語の発音の仕方や日本語との違いがわかり、基礎的な部分から難しいと思った。よくわからなかった発音の仕方や日常的な単語などを調べてみたい。(2年)

声調の使い分けが5種類もあり日本語よりもはるかに難しいと思われるので、中国語の早口言葉を調べてみたいと思った。身の回りの物事を中国語でどう言うのか調べ、台湾研修やバディとしての活動で台湾の生徒と会ったときに少しでも話せるようになっておきたいと思った。(2年)

《編集後記》

中国語の独特な発音やアクセントについて、日本語との違いに驚きつつも、実際に大きな声に出すことで、「中国語とはこういうものだ」と肌で実感し、その難しささえも新鮮な体験として講演会を楽しむ生徒が多かったように思います。また、講演中だけでなく、質疑応答の時間にも多くの生徒が積極的に質問し、中国語への興味を深められたことで、非常に活発で有意義な講演会となったと感じています。今回のSRtimesをまとめるにあたり、中国語の難しさや、教わった単語の発音など、山崎先生がおっしゃっていた多くのことについて改めて振り返る貴重な機会となりました。言語を学ぶことは、その国の多様な文化や考え方に触れることでもあるということを講演会から学ぶことができました。このSRtimesが、皆さんにとって、異文化に触れる面白さや、新たな発見につながるきっかけとなれば幸いです。



老師，謝謝！！！！

(ラオスー シェ シェ)
先生，ありがとう！！！！